令和８年度

今治市中学生議会　会議録



令和８年８月４日

８月４日

出席議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
出席した者の職・氏名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
議事日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　・・ 3

開会（午前９時20分）
達川雄一郎議長の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
徳永繁樹市長の招集挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

開議
日程１　議席の指定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
日程２　会議録署名議員の指名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
日程３　会期の決定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
日程４　一般質問
議長　池田虎太朗議員　質問　河野　楓議員、白石奈央議員・・・・・・・・・・・・・・・・6
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
馬越啓之企画政策局長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
議長　山下陽愛議員　　質問　松岡雄翔議員、渡辺晃嘉議員・・・・・・・・・・・・・・・・10
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
越智貴紀市長公室長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
議長　村上さつき議員　質問　杉原絢士議員、茂木　然議員・・・・・・・・・・・・・・・・14
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
桧垣充宏産業政策局長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
議長　越智翔悟議員　　質問　岩崎力輝議員、坂村穂舞議員・・・・・・・・・・・・・・・・17
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
渡邉赴仁交流振興局長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
議長　今里洋羽議員　　質問　矢野春翔議員、吉岡里菜議員・・・・・・・・・・・・・・・・22
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
村上　彰地域政策局長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
議長　藤原嘉音議員　　質問　濵　翔真議員、山岡杏紗議員・・・・・・・・・・・・・・・・26
小澤和樹教育長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
青野光尚教育政策局長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
議長　山本結愛議員　　質問　尾田一熙議員、木村優花議員・・・・・・・・・・・・・・・・30
小澤和樹教育長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
村上才一教育委員会事務局次長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
議長　國貞晴由議員　　質問　吉野颯良議員、仲野瑠花議員・・・・・・・・・・・・・・・・33
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
森　貞亜消防本部次長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

議長　新居田夏海議員　　質問　木村芽依議員、篠﨑ねね議員・・・・・・・・・・・・・・・・・33
徳永繁樹市長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
浅海文明市民環境政策局長の答弁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
徳永繁樹市長の講評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

閉会（午前 11 時 54 分）

今治市中学生議会　会議録

出　席　議　員

1番	日吉中学校	河野（こうの）　楓（かえで）	2番	日吉中学校	白石（しらいし）　奈央（なお）
3番	大西中学校	杉原（すぎはら）　絢士（あやと）	4番	大西中学校	茂木（もぎ）　然（ぜん）
5番	朝倉中学校	池田（いけだ）　虎太朗（こたろう）	6番	南中学校	山下（やました）　陽愛（ひな）
7番	伯方中学校	村上（むらかみ）　さつき	8番	北郷中学校	越智（おち）　翔悟（しょうご）
9番	関前中学校	今里（いまさと）　洋羽（ひろは）	10番	南中学校	矢野（やの）　春翔（はるか）
11番	南中学校	吉岡（よしおか）　里菜（りな）	12番	北郷中学校	尾田（おだ）　一熙（いっき）
13番	北郷中学校	木村（きむら）　優花（ゆうか）	14番	大三島中学校	松岡（まつおか）　雄翔（ゆうしょう）
15番	大三島中学校	渡辺（わたなべ）　晃嘉（あきよし）	16番	朝倉中学校	岩崎（いわさき）　力輝（りき）
17番	朝倉中学校	坂村（さかむら）　穂舞（すい）	18番	今治東中等教育学校	藤原（ふじわら）　嘉音（かのん）
19番	日吉中学校	山本（やまもと）　結愛（ゆあ）	20番	大三島中学校	國貞（くにさだ）　晴由（せいゆう）
21番	大西中学校	新居田（にいだ）　夏海（なつみ）	22番	伯方中学校	濵（はま）　翔真（とうま）
23番	伯方中学校	山岡（やまおか）　杏紗（あさき）	24番	関前中学校	吉野（よしの）　颯良（そら）
25番	関前中学校	仲野（なかの）　瑠花（るか）	26番	今治東中等教育学校	木村（きむら）　芽依（めい）
27番	今治東中等教育学校	篠﨑（しのざき）　ねね			

出席した者の職・氏名

市長	徳永　繁樹	副市長	土居　忠博
監査委員	木原　盛展	教育長	小澤　和樹
総務部長	村上　　稔	市長公室長	越智　貴紀
総務政策局長	宮﨑　晃嘉	企画政策局長	馬越　啓之
交流振興局長	渡邊　赴仁	地域政策局長	村上　　彰
市民環境政策局長	浅海　文明	産業政策局長	桧垣　充宏
教育政策局長	青野　光尚	教育委員会事務局次長 （兼）学校教育課長	村上　才一
消防本部次長	森　　貞亜	財政課主幹	菅　　真徳

今治市議会

議長	達川雄一郎	副議長	壷内　和彦

市議会事務局

市議会事務局長	白石　恭一	市議会事務局次長 （兼）議会総務課長	岡田　　伸
議会総務課課長補佐	平田　親吾	議会総務課課長補佐	本宮　康邦

議　　事　　日　　程 （令和８年８月４日）	
日程番号	議　　事　　内　　容
１	議席の指定
２	会議録署名議員の指名
３	会期の決定
４	一般質問

○達川雄一郎今治市議会議長　皆さん、おはようございます。今治市議会議長の達川雄一郎と申します。



本日は、ようこそ今治市議会へお越しくださいました。

今日は、各校３人ずつ、９校の27人の皆さんがお集まりであると伺っております。

これまでに、今治市議会のユーチューブや、またはホームページの議事録、今までの議員の発言などですけれども、見たことがある方、手を挙げてくださいますか。なるほど、半数弱ぐらいですかね。はい、下ろしてください。ありがとうございます。

今回の中学生議会を経験するに当たり、見た人もいらっしゃるかも分かりませんけれども、なかなか浸透していないということで、現在、市議会としても、ネットで本会議の中継はされておりますけれども、委員会の中継も検討を進めているところです。皆さんが座っている場所、実際、私もそこに座らせていただいています。今は議長職でありますので、この席からお話をさせていただいているのですが、市議会は市長から提案されてきた予算や条例案、そういったものをここで一旦上程されて、そして各委員会で細かく分かれて審査します。例えば教育であったり、建設のことであったり、あるいは、産業のことであったり。そういったところは、各委員会で細かく審査をされ、そこでいろいろな議論がされた中で、またここに戻ってきて、最終的に表決をすると。皆さんが今回の役割のところは一般質問といって、それぞれの議員が今治市の課題に対して、市長部局に質問をし、改善を要望していくと。そういった場所になっています。この経験というのは、なかなかできないと思うのですね。市内の、約半分の学校が今日、お越しですけれども、今年はその半分の学校は来ることができないということで、本当に来たくても来られないと。また来年は皆さんの学校と違う学校が来るということになりますので、この巡り合わせというものは非常に大事であると思います。そして皆さんは、もう10代半ばになっていますので、参政権も18歳からということで、もう数年後には、実際の選挙に参加をされるということになります。今、主権者教育ということで、若い方々にもいろいろな政治のことを勉強する機会があると思うのですけども、今日の機会というのはまたそれとは違って、実際の体験ということでありますので、私も皆さんからの質問、少し見させていただきましたけれども、非常にすばらしい内容であると思います。そこをしっかりとこの今治市にぶつけていただいて、そして再質問も、あるかないかは個人の判断だということなので、どんどん再質問もしていただいて、ちょっと大人の皆さんは困るかも分からないのですけども、どんどんしていただいて、今治市の未来につながる政策を発表していただければと思います。

そして、結びになりますが、各学校の先生方や保護者の皆様、本日は御支援、御指導、誠にありがとうございました。私もこの場所から皆さんの頑張りを応援させていただきたいと思

います。

それでは、これから私が中学生議会の議長を指名し、中学生議会を進めたいと思います。議長は朝倉中学校の池田虎太朗議員にお願いをいたします



〇池田虎太朗中学生議会議長　私は、初めに議長を務めます、朝倉中学校の池田虎太朗です。よろしくお願いします。

本日の出席議員は27人です。ただ今から「今治市中学生議会」を開会いたします。

徳永市長から中学生議会招集の挨拶があります。

〇徳永繁樹市長　中学生議会の議員の皆さん、おはようございます。今治市長の徳永繁樹です。議会の開会に当たりまして、御挨拶を申し上げます。

まずは、先月７月28日に発生した熊本地震により、尊い命を失われた方々に、哀悼の意を表しますとともに、被災をされた皆様に深く、皆さんとともにお見舞いを申し上げます。今なお不自由な暮らしを強いられている方々、復旧復興に向け懸命に取り組んでいただいている方々が多数いらっしゃいます。１日も早く安心して暮らせる日常が戻ることを願うとともに、今治市としてできる限りの支援を続けてまいります。このような大きな災害が起こるたびに、当たり前の日常の大切さや命の尊さについて考えさせられます。皆さんも被災地に思いをはせ、皆さんでしかできないことは何なのか。そして、できることは何なのか。精いっぱい思いをめぐらせていただくとともに、自分たちのまちの防災安全のために必要なものは何なのかというふうなことを、今一度、皆さんの視点で考えてもらいたいと願っています。

一方で、私たちに大きな希望と元気を与えてくださる大きな、とてもすばらしいニュースがありました。先日、福島県で開催されました第46回全日本中学選手権競漕大会、いわゆる「全中のローイング大会」において、今回の中学生議会にも御参加いただいている北郷中学校の仲間、３年生の大松史奈さんと、今治明徳中学校３年生の辻愛依梨さんのペアが、女子ダブルスカルで見事優勝を果たされました。全国の舞台で力を発揮し、今治の名を高めていただいたことを大変誇らしく思うとともに、努力を積み重ねてきたお二人、そして支えてこられた御家族や指導者の皆様に深く敬意を表する次第でございます。

さて本日は、市内の９校を代表とする皆さんがこの議場に集まり、中学生議会が開催されますことを大変頼もしく思っております。皆さんは学校の授業などで三権分立について学んでおられることと存じます。国においては、「立法」「行政」「司法」の三つの権力がお互いに抑制し、均衡を保つことで、国民の権利が守られています。今治市のような地方自治体におきましては、二元代表制という仕組みが取られておりまして、市民の皆様から直接選挙で選ばれた市長と市議会議員が対等の立場で議論を重ね、このまちのルールや政策を決めていくという

形になっております。皆さんがいるこの議場はまさに、その議論が行われている場所、今治の今と、そして未来を形づくっていく、その方向性を決めている場所と言っても過言ではございません。市民の皆さんの願いや、そして思いをしっかりと受け止め、今治の今や未来を形づくっていく、非常に重みのある場所であります。議員の皆さんには、ぜひそのことを心にとめ、自信を持って御発言をください。私たちは未来を担う皆さんのふるさとを見つめる純粋なまなざしや柔軟な発想から生まれる提案を楽しみにしています。皆さんだからこそ気づくことがある。そして皆さんだからこそ、身近な課題やアイデアの中に今治がもっと輝くための貴重なヒントがあるというふうに思っています。私たちも真剣に皆さんの声に向き合って、誠実にお答えをさせていただきます。どうぞ自分の言葉で素直な思いをお伝えください。本日の中学生議会が皆さんにとって、政治やまちづくりについて学ぶ貴重な機会となり、皆さんにとって新たな気づきや学びを得る有意義な時間となりますことを願い、冒頭の御挨拶とさせていただきます。



本日はよろしくお願いをいたします。

○池田虎太朗中学生議会議長　徳永市長、ありがとうございました。

これより本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりです。

また、報道機関などから申出があり、撮影を許可しておりますので、御了承ください。

日程１、議席指定を行います。議長において、皆さんが着席しているとおり、議席を指定します。

日程２、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、３番杉原絢士議員、24番吉野颯良議員、以上、２人の方を指名します。

日程３、「会期の決定」を議題とします。お諮りします。今治市中学生議会の会期は、本日１日限りとしたいと思いますが、御異議ありませんか。

（　「異議なし」と言う　）

御異議なしと認めます。会期は、本日１日限りと決定しました。

日程４、一般質問を行います。質問の順番は、各議席に配付しております一般質問順のとおりです。通告者の発言を順次許可します。

１番日吉中学校河野楓議員。２番白石奈央議員。

○河野楓議員　日吉中学校３年河野楓です。

○白石奈央議員　同じく白石奈央です。日吉中学校は、校訓である「実行」の下、日々の勉強

や部活動に一生懸命励んでいます。本校は今治市の中央に位置し、たくさんの施設に囲まれて生活しています。



〇河野楓議員　そこで、私たちは「学生にとっての居場所について」２点質問します。

今治市の将来の都市像の施策の中に「今治の未来を担うこどもの教育環境の充実」が定められており、推進されている今治市中心市街地グランドデザイン中の「ネウボラ拠点施設整備」に興味があります。令和４年度の中学生の居場所として何を求めるかというアンケートで、くつろげ、スポーツや学習に励むことができる場所を求めていたことが分かりました。そこで１点目ですが、今、私たちも当時の中学生と同じように、学校以外でも安全安心に交流できる場が欲しいと考えています。図書館や公民館を思い浮かべますが、中学生なので気をつけていても声が大きくなることや騒がしくなることもあるので、公民館や図書館では、周囲に迷惑をかけてしまうことがあるかもしれません。そこで、中学生が周囲に気兼ねなく交流できる施設、また、何かの時には大人が見守ってくれたり学習をサポートしてくれたりするような公共施設があればいいなと考えています。そういった施設ができる予定はありますか。教えてください。

〇白石奈央議員　２点目は、「中学生でも安心してスポーツをしたり遊んだりできる居場所について」です。最近、公園が整備され、親子連れが伸び伸びと遊んでいる姿を見かけます。しかし、小さな子供が遊んでいる場所では、中学生が活動するとけがをさせる危険性があるため、私たちは思いっきり遊ぶことはできません。そんなとき、居場所を探すとなると有料の施設か、少し離れた施設へ時間をかけて移動しているのが現状です。一時的なものでなく、国際海事都市今治のＭＩＣＥ施設や広小路道路空間再編計画の一部として、常設的な学生が利用しやすいスポーツ施設などが造られる予定はありますか。教えてください。

〇河野楓議員　こういった施設がある今治で育つことができたら、将来自分たちが育った良い思い出の今治で子育てもしたくなるのではないでしょうか。よろしくお願いします。

〇池田虎太朗中学生議会議長　答弁を求めます。

〇徳永繁樹市長　日吉中学校の皆さんが通う地域は、市役所をはじめ、今治市の様々な施設が集積するまちの中心。また、皆さんにおかれましては、夏祭りでのボランティア、あるいはお年を召された方々のお世話であったり、避難所の訓練であったりということを地域の皆さんとともに一緒に活動されているというふうに伺っています。今後も、その若い行動力をしっかりと生かして、地域を進化させるように期待をしたいと思います。

それでは、河野楓議員御質問の「中学生が安心して交流できる場について」お答えをさせていただきます。

友達と気兼ねなくお話をしたり、一緒に勉強したり、安心して過ごせる場所は、中学生の

皆さんにとって、とても大切な居場所だと思っています。今治市では、子供たちが安心して過ごし、自分らしく成長できることが、今治の未来につながると考え、子供が真ん中のまちづくりを大切に、そして推進をさせていただいております。現在、お話にありましたように中心市街地におきましては、今治版ネウボラの拠点施設の整備を進めています。この施設は、中学生や高校生をはじめ、赤ちゃんから年配の皆さんまで幅広い世代の多くの方々が集い、人と人とのつながりが生まれる場所となることを目指しているものです。施設には勉強や読書ができる学習スペースのほか、ドラムセットを備えた音楽室やダンスができる多目的室などを整備する予定です。また、友達とわいわいお話をしたり、１人静かに過ごしたりできるフリースペースも設ける予定でありますので、完成をした暁には、自分に合った居場所を見つけてください。とは申しましても、皆さんが高校生の時代には少し間に合わないかもしれません。朝も確認をさせていただきましたけども、皆さんが大学に進学する、あるいは専門学校、社会に出る、その１年目ぐらいに整備と、そのような予定になっております。皆さんの後輩には、皆さんがしてきたような思いをさせないようにしっかりとしてまいりたいというふうにも思います。また、新しい施設を整備するばかりではなくて、今ある施設をどううまく使うのかということで、皆さんの居場所づくりを求めているその声に答えていきたいと思っています。夏休み期間中の平日にはなりますけども、市内の公民館を中学生の皆さんに開放しています。学習や読書、友達との交流などに活用してもらいたい。さらに、皆さんの学校のすぐ近くにある中央図書館の前には芝生テラスがあって、屋外で読書や休憩ができる憩いの場として活用されています。今後は館内におきましても、静かなエリアばかりではなくて、会話ＯＫのエリアやイベントにも利用できるエリアなど、目的に応じて利用しやすい空間となるよう、検討してまいります。今年は図書館ができて100年ということでありますので、未来をまた、図書館についても考えていきたいというふうにも思います。また、今朝も担当職員とお話をしていたのですけども、公園の整備というのも必要です。でも今暑いですよね。屋内でしか遊べない、そして過ごせないという環境だと思っておりまして、ネウボラの施設、あるいは既存の施設に加えて、民間の施設も、子供の居場所として使うことができないかというふうなことについて検討を指示させていただきました。御質問の最後にありました、将来、今治で子育てをしたくなるまちという言葉は、大人である私にも刺さりました。子供の頃の楽しい思い出というのは、このまちが好きになるという気持ちにつながるものだというふうに思うのです。だからこそ、若い皆さんの声を大切にして、今治って何かいいよね。今治で育ってよかったよね。住み続けていきたいよね。一度大学や社会に出ても、やっぱり今治に戻って暮らしていきたいよねというふうに思っていただけるような、そんなまちづくりに皆さんとともにこれからも挑戦をしてまいろうと思っておりますので、また新しい声を皆さんからお聞かせをいただければ、非常にありがたいと思います。

私からは以上でありまして、もう一つの質問につきましては、企画政策局長から答弁を差

し上げることといたします。

○馬越啓之企画政策局長　白石奈央議員御質問の「中学生が安心してスポーツをしたり遊んだりできる場所について」お答えします。

体を動かすことは、健康づくりだけでなく、友達と楽しい時間を過ごし、多くの思い出をつくる貴重な機会でもあります。そのような場所が身近にあることは、とても大切だと考えています。今治市では、広小路周辺のまちづくりやＭＩＣＥ施設の整備に取り組んでいます。ＭＩＣＥ施設は、国際会議やイベントの開催だけでなく、誰もが日常的に利用し、楽しく交流できる施設を目指しています。また、広小路では、車中心の道路から、人が歩き、くつろぎ、交流できる空間へと生まれ変わらせる計画を進めています。今年11月には広小路で、人が歩きやすく過ごしやすい空間を実際に体験していただく社会実験を予定しています。そこで寄せられる市民の皆さんの御意見を参考にしながら、より親しみやすい空間となるよう取り組んでまいります。さらに、新しい施設だけでなく、今あるスポーツ施設や広場なども、皆さんが利用しやすくなるよう工夫していきたいと考えています。皆さんからいただいた御意見は、これからのまちづくりを進める上で、とても大切なヒントになります。これからも皆さんの声を大切にしながら、「今治で育ってよかった」と思えるまちづくりを進めさせていただきます。

以上でございます。

○池田虎太朗中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

河野楓議員、白石奈央議員。

○白石奈央議員　ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○池田虎太朗中学生議会議長　以上で、日吉中学校河野楓議員と、白石奈央議員の一般質問を終わります。



次の議長に、南中学校の山下陽愛議員を指名します。

○山下陽愛中学生議会議長　議長を務めます、南中学校の山下陽愛です。よろしくお願いします。質問を続けます。

14番大三島中学校松岡雄翔議員。15番渡辺晃嘉議員。

○松岡雄翔議員　大三島中学校３年松岡雄翔です。

○渡辺晃嘉議員　同じく大三島中学校３年渡辺晃嘉です。

○松岡雄翔議員　私たち大三島中学校は、「平和教育」「人権教育」「防災教育」を学習の柱として、日々の学校生活に励んでいます。特に昨年は、学校防災教育の実践モデル地域研究校として、様々な視点から防災への学びを深めました。その中で、私たちは「もし南海トラフ巨大地震が起こった際、どうなるか」を学びました。予測データによると、大三島は震度５強と

されており、近隣の地域に比べると比較的震度が小さいことが分かっています。そのため、私たちが普段生活道路として使っている「しまなみ海道」は、本州と四国をつなぐ大変重要なルートとなり、ここ大三島も災害支援の拠点としての役割を担う可能性があることを知りました。私たちもこの学びを生かし、日頃から備えていこうと考えています。

○渡辺晃嘉議員　しかし、先日の台風による大雨の際、しまなみ海道は通行止めになってしまいました。島外から通われているため、通勤ができなかった先生もいらっしゃいました。しかし、フェリーを使い通勤してくださった先生がいて、私たちは改めて「海の交通機関」の重要性を感じました。その一方で、しまなみ海道の開通以降、利用者の減少に伴って今治市と大三島、さらには今治市と広島県をつなぐフェリーの減便が続いています。そこで、私たちは今治市の防災と安全について、次の２点を質問いたします。



１点目は、「災害時における陸路以外の交通手段について」です。しまなみ海道が使えなくなったもしもの時のために、フェリーをはじめとする海上交通の連携や確保を、今治市ではどのように準備しているのか、教えてください。

○松岡雄翔議員　２点目は、「しまなみ海道そのものの災害対策について」です。今回のような大雨や大地震の際にも、簡単にしまなみ海道が止められないよう、道路の補強や規制緩和などに向けた取組、国、県への働きかけなどが行われているか、教えてください。

○山下陽愛中学生議会議長　答弁を求めます。

○徳永繁樹市長　大三島中学校では、防災士の皆さんと共に学びを深め、地域の特色を踏まえての防災対策を考えているというふうにお聞きをしています。先日、熊本県で起こった大きな地震でも、災害への備えの大切さを多くの皆さんが感じる中、皆さんの取組を大変頼もしく感じています。

それでは、渡辺晃嘉議員御質問の「災害時における陸路以外の交通手段について」お答えをさせていただきます。６月下旬の大雨で、しまなみ海道の一部区間で通行止めが繰り返され、島嶼部で生活をされている方や、通勤通学をされる方々に大きな影響が出たことは御案内のとおりであります。先生方がフェリーを使って学校に登校をなさったことも、海の交通機関の大切さを生徒の皆さんも実感をされたことと存じます。ですが、このような長期間にわたっての通行止めは、今治でも大きな被害があった平成30年７月豪雨以降初めてのことでございまして、決して頻繁に起きるものではありませんし、起きてもらっては困るというふうにも思っています。また、通行止めとなった場合でも、救急車や消防車などの緊急車両は通行できるよう対応しておりまして、皆さんの命と安全を守るための緊急輸送はしっかりと確保されていますので、どうか御安心を願いたいと思います。昨日、お二人が今日中学生議会で私にこのよう

な質問をいただけるというお話を本州四国連絡高速道路株式会社の社長に直接お話をさせていただきました。なぜ来島海峡大橋は通行ができて、３島間の移動はできなかったのか。情報の在り方について、今一度、今治市とともに連携をし、市民の皆さんに不安をもたらすことがないよう、安心して暮らしができるようにと、私から直接要望させていただき、社長からも、今後そういう対応を一緒に考えましょうと言っていただいております。今治市では、島嶼部の道路が災害によって通行ができなくなったときには、現在ある定期船を使って、人や物資を運ぶこととしております。平成27年に、海でお魚をとる方々を漁師と言いますけども、その漁師の皆さんの組織がございます。その組織の皆さんと約束をしておりまして、平成30年７月の豪雨災害においては、実際に漁師の皆さんの漁船で救助隊や支援物資を被災地へ運ぶというふうなことがございました。さらに、海上保安部や消防、警察、災害医療支援船「Power of Change」を持つ民間団体ピースウィンズ・ジャパンと連携をしておりまして、海での避難や救助、負傷者の搬送を想定した実践的な訓練にも取り組んでいます。大三島のお二人だったら恐らく昨年、上浦多々羅スポーツ公園で行った今治市の総合防災訓練も見ていただいたのかなと思います。この際においても、船を活用した海上連携訓練を行っています。このように、今治市では、様々な団体の皆さんと協力をしながら、災害時に海から人や物資を運べる仕組みの強化に取り組んでいます。皆さんも、今回の大雨をきっかけに、もし、道路が使えなくなったらどう行動したらいいのかということを家族や地域の皆さんと話し合ってみてください。これからも防災について考え、災害に備える取組を続けていただくことを願っています。

私からは以上であります。

○越智貴紀市長公室長　松岡雄翔議員御質問の「しまなみ海道そのものの災害対策について」お答えいたします。しまなみ海道は、市民生活を支えるとともに、災害時には救助隊や支援物資を運ぶ緊急輸送道路として、とても大切な役割を担っております。南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、しまなみ海道を管理する本州四国連絡高速道路株式会社、いわゆる「本四高速」では、来島海峡大橋などの橋について耐震補強を順次進めているところでございます。しかし、今回の大雨では、雨が降り続き地盤が緩んだ状態で、いつもの年なら６月の一月で降る雨の量を、わずか３日で超えてしまいました。道路自体は強度もあり安全性が高いものの、その周りにある山からの土砂崩れといったおそれもあったことから、管理者の本四高速が状況を確認したうえで、利用者の命を守るため、やむを得ず通行止めとしたものです。今治市といたしましても、先ほど市長が答弁しましたが、本四高速と情報共有や連携を取りながら、市民の皆さんに安心して行動してもらえるよう、必要な情報をできるだけ分かりやすくお伝えしていきます。そして市民の皆さんと一緒に災害に強いまちづくりを進めていきますので、皆さんも地域を守る大切な仲間として、ふるさと大三島・今治市の未来を一緒に考えていきましょう。

以上でございます。

○山下陽愛中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

松岡雄翔議員、渡辺晃嘉議員。

○松岡雄翔議員　ありません。ありがとうございました。

○山下陽愛中学生議会議長　以上で、大三島中学校松岡雄翔議員と、渡辺晃嘉議員の一般質問を終わります。



次の議長に、伯方中学校の村上さつき議員を指名します。

○村上さつき中学生議会議長　議長を務めます、伯方中学校の村上さつきです。よろしくお願いします。質問を続けます。

３番大西中学校杉原絢士議員。４番茂木然議員。

○杉原絢士議員　大西中学校３年杉原絢士。

○茂木然議員　同じく茂木然。私たち大西中学校は全校生徒151人という少ない人数ですが、小規模校の強みを生かし、生徒会活動を積極的に行っています。例えば、全校道徳や生徒集会、「挨拶こだま運動」と題した朝の挨拶活動、クイズやスポーツで内容を工夫したグループマッチなど、学年の垣根を越えて、縦と横のつながりを大切にした笑顔の絶えない大西中学校を目指して、様々な活動を行っています。

○杉原絢士議員　私たちからは、若者の地元就職・Ｕターンについての質問をいたします。

１点目は、世界最先端のＩＴ・ＡＩが活躍する新しい海事産業の魅力をどう若者に届けるかです。来年度より、今治工業高等学校に海事探究科ができ、愛媛大学と連携してサテライト校を設置するなど、今治を海事産業の中心となるまちにしようとしている取組について聞きました。進化する地元の強みに、若者が誇りを持って挑戦できるまちにするために、今後の取組を教えてください。



○茂木然議員　２点目は、海事産業にとどまらない、多様な職種を目指す若者が地元で輝ける場をどうつくるかです。どんな夢を持った若者も、諦めずに地元に就職できる、多様性のあるまちとなるために、海事産業以外の場所でも輝ける魅力ある今治をどのようにつくっていこうと考えているのか教えてください。

以上で質問を終わります。

○村上さつき中学生議会議長　答弁を求めます。

○徳永繁樹市長　お二人、随分緊張なさっていましたね。ここが汗でべっちょりになっています。その情熱をしっかりと受け止めて答弁を差し上げたいと思います。

皆さんのお住まいの大西地区というところは造船業を中心に835名の外国の皆さんが暮らし

ておられます。「サッカーでお結び会」というのをやって、日本人と、そして大西地区を好きで選んでくださった外国の方が交流をするということも生まれておりまして、今治市の中においても、多文化共生という文化が徐々にではありますけども進みつつある、そんな地域なのかなと思います。皆さんが生徒会活動を通じて、学年を超えたつながりを大切にし、笑顔の絶えない学校を目指しているように、私たち今治市も、しっかりと人と会ったら挨拶する。そして笑顔が絶えないようなそんな今治市をつくっていきたいというふうにも思います。今日皆さんのお話を聞いて、やはり、私たちも学ぶところがたくさんあるなと思います。

それではお二人から御質問をいただいた、「新しい海事産業とその魅力について」お答えをします。今治市には、世界に誇る海事産業、海事産業というのは、船を操船する、船を操る会社、船を造る会社、船を造る過程でパーツをつくる会社、そして船を造るときには多額のお金も必要ですので金融機関、そして法的整備、いろいろな企業があり、それを総称して海事産業と言っておりますけれども、そういう産業が地場産業であります。私たちの暮らしに欠くことのできないエネルギーや食べ物、洋服などの多くは船で運ばれています。日本の貿易の99.5%を海上輸送が担っていることは皆さんも知っていると思います。こうした海事産業は私たちの暮らしと経済を支える重要な産業として、今、高市内閣総理大臣のもとで、日本でこれから17分野を成長産業としていこうという中に造船業が入っているということも知っておいてください。そして今、海事産業はＡＩやロボット、環境に優しい次世代船、自動運行技術などの発展によって大きな変革の時代を迎えています。というのは、船を造るのにも、たくさんの現場で働いていただく人がいるのですけども、その従事者が非常に少ないというところをＡＩやロボットで省人化をしていく生産性の向上が求められているという時代を迎えています。最先端の技術を活用しながら、世界を舞台に活躍ができる、夢と可能性にあふれた産業へと進化をしていかなくてはなりません。今治市では、こうした海事産業の魅力を皆さんのような若い世代に届けるため、進水式や、職場体験、バリシップなどを通じて、世界で活躍する地元企業の姿や最先端の技術に直接触れる機会を提供しています。先般、今治市において、「いまばりロボット未来共創都市宣言」ということをさせていただきました。この間、伯方島におきまして、小学校１年生から６年生までのお友達に集まっていただいて、プログラミング教室もさせていただきました。ややもすれば、大三島、伯方島、大島というのはなかなかそういうことで遊べないということも聞いておりましたので、やらせていただきました。そして昨日は私どもの産業部長が福岡県に行きまして、福岡県のある大学、そして愛媛大学と連携をして、今後、今治城のお堀を使って海のロボコンができないかなということなども考えています。これはどういうことかというと、ロボットとか生成ＡＩというのは遠い未来のように感じておられる市民の方もたくさんいらっしゃいますので、皆さんのような世代のときから、そういうものにしっかりと触れるような環境を今治市としてはつくっていきたいかなと思うのですね。で、愛媛県立今治工業高校におきまして、新たに海事探究科の設置があります。高校で３年間学んだ

後、通常であったらそこで卒業なのですけども、もう少し学びを深めていきたいと言われる生徒の皆さんには、２年間、専門的な知識技術を学ぶための造船系専攻科の設置も検討されています。また、昨年10月ですけども、愛媛大学の今治サテライトが今治国際ホテルの隣に今治地域地場産業振興センターというのがありまして、そちらに出てきていただいております。本年４月より、愛媛大学においては海事産業特別コースが開講され、学びもスタートしています。さらに、来年の４月には大学院の設置も予定されておりまして、今治にいながら、高校から大学院まで学び続けられる環境整備も進んでいます。このように、幼い頃から海事産業への理解を深め、学びや挑戦を続けていくような環境づくりを一層進めることによって、皆さんのような若い世代がふるさとの今治に誇りを持って自らの夢に向かって挑戦できるまちづくりに、私たちは邁進をしてまいろうと思います。ぜひ今治には大きな仕事があるのだ、世界を驚かすような仕事ができるのだ、世界に挑戦できる仕事がここ今治にあるのだというふうなことを知っていただいて、自分の夢や、そしてその可能性を大きく広げていただけるように頑張ってもらいたいと思います。これからの時代というのは、中学生、高校生の皆さんがこれからのまちづくりの主役になります。皆さんのような若者に、私たちは選んでもらいたいというふうにも思っておりますので、今治が持つ多彩な魅力を皆さんに刺さるようにしっかりと発信をしながら、そして皆さんが大人になったときに皆さんが同じように発信をしていただけるように、私たちはこれから皆さんとともにいいまちをつくっていこうかなというふうに思います。10年後の未来に向かって、私たちはフューチャーマップというものもつくりました。この今治市民会館の横のところに大きな、10年後の未来予想図を、掲示をさせていただいております。はーばりーにもありますし、皆さんがちょっと気にしたら、あ、これがそうだというふうに思っていただけるようなものがあります。10年後、あんなまちになればいいなというふうに皆さんと思いを一にして、私たちの挑戦はこれからも続けたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

私からは以上でございます。

○桧垣充宏産業振興局長　お二人から御質問の「若者の職業の可能性について」お答えいたします。

今治市には、海事産業や世界に誇るタオル産業をはじめ、食品産業やエネルギー産業、伝統産業など、さまざまな産業があります。また、国内外のサイクリストが訪れるしまなみ海道を生かした観光業、私たちの暮らしを支える看護・介護・保育といった医療・福祉分野、皆さんの生活を幅広く支える公務員など、今治市には魅力的な仕事がたくさんあります。しかし、地元にどのような企業や仕事があるのかを知らなければ、せっかくの就職の機会の選択肢を逃してしまうかもしれません。そこで今治市では、地元産業への理解を深めてもらうため、３つの取組を進めています。１つ目は、大学生と一緒に制作している、企業の魅力を紹介する「企業魅力発信動画」の配信です。２学期からは、各中学校の給食の時間などで上映する予定で

す。少し御覧ください。

（　映像を流す　）

これは大学生が、どうしたら今治の企業の魅力が伝わるかというのを一生懸命考えて作ったものです。続いて２つ目は、「ふるさとキャリア教育」です。職場体験学習などに加え、今年度から新たに中学１年生の授業で市内企業の方に仕事のやりがいや魅力を直接伝えてもらう取組を始めました。３つ目は、「合同企業説明会」の開催です。大学生などを対象に今治で輝く魅力的な企業の担当者と直接お話しができる機会になっております。また、新しいビジネスに挑戦する環境も整っており、さまざまな進路の選択肢が広がっています。さらに、企業ではデジタル技術やＡＩ、ロボット技術を活用した職場環境の整備が進んでおります。先ほど、市長からお答えしました、今治市も先月、四国初となる「いまばりロボット未来共創都市宣言」を行い、こうした頑張る企業の取組を支援しています。そして、将来、皆さんが進学や就職で一度は今治を離れるかもしれませんけれども、やっぱり今治が良いと言って戻ってもらえる、そして、住み続けたい、ここで働き続けたいと思える魅力的なまちにしていきます。

以上でございます。

○村上さつき中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

杉原絢士議員、茂木然議員。

○杉原絢士議員　先ほどの答弁にありました「いまばりロボット未来共創都市宣言」につきまして、初めてお聞きしましたが、どのような宣言内容なのか教えてください。

○村上さつき中学生議会議長　答弁を求めます。

○桧垣充宏産業振興局長　杉原絢士議員、再質問の「いまばりロボット未来共創都市宣言」についてお答えします。

「いまばりロボット未来共創都市宣言」に興味を持っていただいてありがとうございます。この宣言は、人とロボットが協力して新しい価値を生み出すまちを目指すもので、三つのステップを描いています。一つ目は、人材育成です。子供から大人まで、ＡＩやロボットに触れて学び、使いこなせる人を育てます。二つ目は、ロボットの活躍の場を広げることです。現場がたくさんある今治市でロボットを実際に使い、改良を重ねて社会で役立てます。三つ目は、新しい産業をつくること。今治のものづくり技術を生かし、ロボットやＡＩを開発する新しい仕事を生み出します。今年度は、その人材育成、一番大事なところですけれども、その第一歩として三つの事業をスタートします。一つ目は、先ほど御説明しました８月１日から取り組み始めました「いまばりＫＩＤＳプログラミングコンテスト」です。これは小学生が対象で、11月に大会を行う予定です。二つ目は、８月22日から始まる「いまばりＫＩＤＳロボコン」です。これは小学生、中学生が対象でロボットの製作やプログラムを体験していただくことになります。三つ目は、「海のロボコン」です。海事都市今治らしく、将来に船の自動運転など、海や船を舞台にしたロボットコンテストに向けて準備を進めております。皆さんが将

来、日々生み出される技術を当たり前のように使い、ふるさと今治をさらに盛り上げていただけることを期待しています。

以上でございます。

○徳永繁樹市長　お二人の再質問にお答えをさせていただきます。

基本的には今、桧垣産業振興局長がお答えしたとおりですけども、今、皆さんが15歳、16歳ぐらいなのかな。今から24年後か、2050年ぐらいになりますと、今治市の人口というのが今、14万5,000人ぐらいですけども、10万人を切るという、危機的な指数が示されています。やっぱり、人口の減少というのは、私や皆さんが暮らしをしていく上で、非常に大きな影響を及ぼしてきます。例えば、今日は海事産業がテーマですけども、船を造る、あるいはタオルを編んで織る。こういうふうなことについても、人がどんどんどんどん減っていくということになれば、今の生産量を維持していくことというのはやっぱり難しいというのは皆さんの立場でも分かると思うのです。だからこそ、日本人の育成もするし、外国の皆さんに、この業種を好きになっていただいて、今治に定着をしていただくような仕掛けもしていかなくてはならないし。もう一つが、やはりロボット・ＡＩ、こういうふうなものをつくっての生産性の向上をしていかなくてはならないと思うのですね。タオルなどでも、もともと今治というのが大阪府の泉州とともに産地だったのですけども、すごい何万円もするようなタオルというのを私たちの地域では生み出しているのですけども、多分、みんなが使っているタオルの10枚に８枚は外国製のタオルなのですね。では、なぜ外国製のタオルがそこまで流通しているのかというのは、品質が良くて、しかも少しお求めしやすい、買いやすいということがあります。では、なぜ買いやすい価格帯でできるのかと考えたときに、人件費の安さではないのですね。365日24時間、人が休んでいるときにロボットが動いているわけです。そういうふうな生産性向上を、例えばもう中国とか韓国はやっているわけですね。日本はやっぱりそこに少し後れを取っている。だから今治を見たときに、私たちのまちには日本最大の海事産業があって、そして、今治タオルもあって、医療や介護やいろいろなものがあるので、このロボットで人の仕事を奪うというのではなくて、人間でしかできない仕事にもっと特化・集中をして、人間ではなくてもできるところを生成ＡＩやロボットで対応していこうという大きな志がこの「いまばりロボット未来共創都市宣言」ということなのです。桧垣産業振興局長がお答えをしてくれたように、第１フェーズ、第２フェーズ、第３フェーズということがあって、皆さんがこのまちの主役になるときに、その備えを今からやっぱりしていきたいなというふうにも思っていますし、今治が今治であり続けていくために、この挑戦はやっていく必要があると私自身が判断し、「いまばりロボット未来共創都市宣言」をさせていただいた次第です。

お答えは、以上であります。

○村上さつき中学生議会議長　杉原絢士議員、茂木然議員。

○杉原絢士議員　ありがとうございました。これで質問を終わります。

○村上さつき中学生議会議長　以上で、大西中学校杉原絢士議員と、茂木然議員の一般質問を終わります。



次の議長に、北郷中学校の越智翔悟議員を指名します。

○越智翔悟中学生議会議長　議長を務めます、北郷中学校の越智翔悟です。よろしくお願いします。質問を続けます。

16番朝倉中学校岩崎力輝議員。17番坂村穂舞議員。

○岩崎力輝議員　朝倉中学校３年岩崎力輝です。

○坂村穂舞議員　同じく坂村穂舞です。私たちが頑張っていることは、学校の伝統的な文化を受け継いでいくことです。その中でも一番力を入れていることは、運動会の応援合戦です。現在、私たち３年生は９月の運動会に向けて準備と練習を進めています。３年生が一から内容をつくり上げ、全校生徒が一丸となって取り組むこの活動は、私たちにとって、仲間と深く絆を深められるスポーツを通じた大切な交流の機会となっています。今治市でも、里山スタジアムを核としたにぎわい創出や、来年開催予定のモルックアジア大会など、スポーツによる新たな交流が広がっています。こうした中、私たちが今、応援しているのがＦＣ今治です。男子チームが今治を盛り上げる一方で、ＦＣ今治レディースがなでしこリーグから降格となったニュースに心を痛めました。私たちが応援合戦で仲間を信じてエールを送り合うように、市民が一つになってＦＣ今治レディースのなでしこリーグ復帰を全力で支え、共に戦っていきたいと強く願っています。そこで、地域のスポーツ振興と交流の観点から、２点質問します。



○岩崎力輝議員　１点目は、里山スタジアムを核としたにぎわい創出や多世代が日常的に交流できる場所にするために、市として今後どのような活性化の施策を進めていかれる計画でしょうか。２点目は、ＦＣ今治レディースが１年でも早くなでしこリーグに復帰するために、今治市として今後どのような支援や活性化の施策を進めていかれる計画でしょうか。以上、２点についてよろしくお願いいたします。

○越智翔悟中学生議会議長　答弁を求めます。

○徳永繁樹市長　朝倉中学校の皆さんが「挨拶運動」や地域の方々との「防災マップ」づくり、そして私とともに、笠松山でのボランティア植樹など、林野火災からの復旧活動にも力を入れ、取り組んでいただいておりますこと、市民を代表する形として皆さんにお礼を申し上げ

ます。皆さんのお仲間にも、くれぐれもよろしくお伝えを願いたいというふうにも思います。この取組は、皆さんの世代で終わるわけではありません。皆さんの後から続いてくる方々と長い期間を通して復旧に取り組んでいかなくてはなりません。ぜひそうしたことについても御協力をいただきますようにお願いを申し上げます。

それでは、お二人から御質問をいただきました「里山スタジアムを核としたにぎわい創出について」お答えをさせていただきます。ＦＣ今治の本拠地であるアシックス里山スタジアムは、昨年の大型ビジョン設置をはじめ、5,316席から、8,848席へと増席されたことにより、ホーム戦19試合で約16万人以上の来場者が見込まれるなど、進化をしていくスタジアムであるとともに、にぎわいを生み出す大切な拠点だと思っています。今治市は、このスタジアムを中心とした里山エリアを365日にぎわいを創出する場所として、試合の有無にかかわらず、ふだんから幅広い世代の皆さんが気軽に訪れる場所にしていきたいと考えております。スポーツパークでは、来年１月に開催予定のモルックアジア大会の開催などを通じて、国や文化を超えた交流が期待できるほか、イオンモール今治新都市では、「子育て広場ハピ」や「しまなみ木のおもちゃ美術館」を中心に、多世代が交流できる環境づくりを進めています。さらに、今シーズンからでありますけども、無料のシャトルバスを運行し、アウエーの方々も含めて、市外からもそうですけども、来ていただいたお客様、サポーターがまちなかでの観光や食事も楽しんでいただけるような流れをつくり、地域全体のにぎわいにつなげたいと思っているのです。皆さんもスタジアムや里山エリアでスポーツや様々な交流を楽しみ、多くの人と出会い、今治の魅力を感じてもらえたらうれしく思います。スタジアムは今治の元気の象徴。これからも皆さんと一緒に瀬戸内の新しい風を起こし、そして今治を盛り上げていきましょう。

私からは以上です。

○渡邊赴仁交流振興局長　お二人から御質問の「ＦＣ今治レディースへの支援について」お答えします。

昨シーズン、ＦＣ今治レディースがなでしこリーグから四国リーグへ降格したことは、選手や関係者はもちろん、応援してきた皆さんにとっても、悔しい結果であったと思います。それでも、選手の皆さんは、その悔しさを力に変え、まずは四国リーグで上位を目指し、その先にある「もう一度なでしこリーグの舞台に立つ」という強い決意を胸に、練習に全力で取り組んでいることと思います。夢に向かって挑戦を続ける姿は、私たちに勇気と元気を与えてくれています。今治市もホームタウンとして、ポスターを市の施設に掲示するほか、ホームページやＳＮＳで試合の様子や選手の活躍を紹介しています。また、桜井海浜ふれあい広場サッカー場の芝生を張り替えたり、夜間も練習できる環境を整えたりと、選手が練習しやすい環境づくりにも取り組んでいます。そして、皆さんが通う朝倉中学校では、ＪＦＡアカデミー今治の選手たちが、寮で共同生活を送りながら、勉強とサッカーの両立に励んでいます。これまでの卒業生には、高校女子サッカーの強豪校へ進学し、なでしこリーグや海外で活躍している選手も

います。そのなかでも、首藤優里選手と濱渦柚花選手は、現在、ＦＣ今治レディースで活躍しています。皆さんと同じ朝倉中学校で学んだ先輩が、なでしこリーグ、そしてその先の日本代表という夢の舞台を目指し、挑戦を続けていることは、皆さんにとっても、今治市にとっても大きな誇りであります。一人一人の熱い声援が、選手の背中を押す力になります。なでしこリーグ復帰を目指す選手たちの挑戦を、みんなで応援していきましょう。

○越智翔悟中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

岩崎力輝議員、坂村穂舞議員。

○岩崎力輝議員　ＦＣ今治レディースの試合にも多くの市民や子供たちが足を運び、応援の輪を広げていくために、私たち市民はどのような形でサポートに関わっていくべきか、お考えをお聞かせください。

○越智翔悟中学生議会議長　答弁を求めます。

○渡邊赴仁交流振興局長　若い世代の皆さんにできる一番の身近な応援は、まず家族や友達と一緒に試合会場へ足を運び、選手に声援を届けることです。スポーツは自分でするだけでなく、見ることや、応援すること、ボランティアとして試合や大会を支えることでも関わることができます。試合の日程や選手の活躍を友達に伝えたり、ＳＮＳなどで紹介したりすることも、応援の輪を広げるきっかけになります。また、観客席が増えるアシックス里山スタジアムをみんなで満席にすれば、そこで生まれる大きな声援と熱気がＦＣ今治レディースの選手たちの力にもなります。応援の一声、１回の拍手、１つの発信に気持ちを込めて、選手たちに熱いエールを送りましょう。やろうぜ。

○越智翔悟中学生議会議長　岩崎力輝議員、坂村穂舞議員。

○岩崎力輝議員　ありがとうございました。これで質問を終わります。

○越智翔悟中学生議会議長　以上で、朝倉中学校岩崎力輝議員と、坂村穂舞議員の一般質問を終わります。

次の議長に、関前中学校の今里洋羽議員を指名します。



○今里洋羽中学生議会議長　議長を務めます、関前中学校の今里洋羽です。よろしくお願いします。質問を続けます。

10番南中学校矢野春翔議員。11番吉岡里菜議員。

○矢野春翔議員　南中学校３年矢野春翔です。

○吉岡里菜議員　３年吉岡里菜です。

○矢野春翔議員　私たちは昨年、ふるさとキャリア教育で「バリウマ食堂」という、給食を地

域に提供し、地産地消を促進するという提案をさせていただきました。そして先日、清水小学校の夏祭りボランティアの一環で、提案を実現することができました。私たちのアイデアを形にしていただいたことに感謝するとともに、自分たちが主体となって企画や試食会から関わり、地域の方々に喜んでもらえたことは、とてもやりがいを実感する経験となりました。そこで、本日は中学生のボランティア活動や社会参画について、２点質問します。

まず１点目は、「ボランティア活動の情報について」です。今回の経験から、中学生によるボランティア参加がもっと活発になればいいと思っています。そこで、中学生がボランティアに関する情報を得るには、どのような方法があるのかを教えていただきたいです。学校では、「夢サラダ」というプリントが配付されており、主な情報源となっています。その他にも情報を得られる方法があれば教えてください。



○吉岡里菜議員　２点目は、「中学生が果たすべき役割について」です。私たちには、「もっと様々な経験をしたい」「今治市のために力になりたい」という思いがあります。しかし、私たちのやりたいという思いだけでなく、市や地域が求めている声を聞く必要もあると考えました。例えば、授業では防災の視点で「共助」について教わりました。被災地において、中学生が地域のために活動していることを聞いたとき、地域からのＮｅｅｄと、中学生のＣａｎ、そして「力になりたい」というＷａｎｔが一致していると感じました。そこで本日、行政的な視点で、中学生にはどのような役割を期待しているのかを教えていただき、今後のボランティア活動の参考にさせていただきたいです。よろしくお願いします。

○今里洋羽中学生議会議長　答弁を求めます。

○徳永繁樹市長　南中学校の皆さんが地域を清掃するクリーンボランティア、そして、暑い中、雨の中でもバリクリーンでの花植えのボランティア、様々な活動をしていただいていますね。そして先般は、皆さんの目の前に、壷内会長、清水地区コミュニティ推進会会長ですかね。その方が音頭をとって夏祭りがあって、皆さんが「バリウマ食堂」を展開していただきました。私の推しは揚げパンとそして焼豚玉子飯おにぎりでしたか、非常においしかったなというふうにも思います。こうした皆さんがコミットをして、皆さんがそれを実践するというのは多くの方々を巻き込む、そして共感が生まれるということでありますので、こうした活動を続けてお願いができたらなと思っています。

それでは、お二方からいただきました、「中学生が果たすべき役割について」お答えをいたします。今治市には、中学生の声をまちづくりに直接生かす取組がありまして、本年ならば９月と10月に開催の「こどもみらい会議」というものがございます。今治の未来をわくわくさ

せるアイデアをみんなで出し合って語り合うというステージです。また、先ほど答弁申し上げましたけども、本年３月には、フューチャーマップを公表させていただきました。将来あるとうれしいなと思うものを描き込んで、皆さんの夢を形にしていくぬり絵コンテストを現在募集中であります。どちらもすばらしいアイデアがあれば、すぐに検討したい、そして新たな事業として、動かしていこうかなと考えております。こんなまちになったらいいなというふうなことがあれば、私たちに率直にお伝えをいただきたい。でも、皆さんはもう既に提案をし、そして形にしました。今後、次、同じようなことをしていく場合は、一つの解像度を上げていくということをもう少し自分たちの仲間の中で考えてもらいたいなと。先ほど言われましたけどもＮｅｅｄとＣａｎという話がありました。どういうふうな要望がどのあたりにあって、自分たちは何ができるのか。そして、ほかの方が同じような取組をしているのかどうなのかということもやって、自分たちでしかできないようなパフォーマンスを考えていただきたいと思います。皆さんには、そうした気づきをヒントに、未来の今治がどうあるべきか、ということを一緒に考えて、そして一緒に行動させてもらいたいなと思うのです。皆さんの先輩である高校生の皆さんというのは、自分たちの好きなもの、気になるもの、そして、これが課題ではないのというふうに感じたものをきっかけに、地域とのつながりを育む活動や課題解決に挑戦する新しい組織、いまばり探究部を立ち上げようとするなど、常に皆さんのフロントランナーとして前を走り続けていただいています。まずは中学生の今できる行動から始め、やがて高校生という新しいフェーズになったときに、いまばり探求部などにも積極的に参加をしていただいて、どこの学校にいたとしても、今治の子であることは間違いありません。キャンパスの中だけで学ぶということではなくて、今治全域が皆さんのフィールドだという意識の中で、これから頑張っていただいたら非常にありがたいなというふうに思います。自分たちが大人になったときをイメージして、ここで暮らしたいと思っていただけるような今治を一緒になってつくり上げてまいりましょう。

私からは以上です。

○村上彰地域政策局長　矢野春翔議員御質問の「ボランティア活動の情報について」お答えいたします。ボランティア活動は、地域や社会に役立つだけでなく、皆さんにとっても新しい経験ができる貴重な機会です。中学生の皆さんが参加できる活動として、例えば、目の不自由な方に音声で情報を届ける「音訳ボランティア」や、病気の方へ贈る「タオル帽子づくり」、福祉施設での「喫茶ボランティア」などがあります。また、「スポーツ大会の運営支援」として「今治伯方島トライアスロン」やＦＣ今治のボランティア「Ｖｏｙａｇｅ」に参加したり、「イベント運営補助」として「せとうちみなとマルシェ」で活動したりと、市内には皆さんが活躍できる場がたくさんあります。こうしたボランティア情報は、「夢サラダ」のほか、今治市社会福祉協議会のホームページにある「今治市ボランティアセンター」や、ＦＣ今治のホームページ等から探すことができます。さらに、便利なツールとして、この７月からスタートし

た「いまばリンク」を知っていますか。市内のイベントや地域活動など、今治の様々な情報を一つに集めた新しいサイトです。ここにもボランティア情報が随時掲載されますので、御活用ください。ボランティアで多くの人と関わり、地域から感謝される喜びを感じることは、思いやりの心を育み、皆さんの大きな成長につながります。今日お伝えした情報を参考にして、御自身が楽しめる活動を見つけ、積極的にチャレンジしてみてください。

以上でございます。

○今里洋羽中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

矢野春翔議員、吉岡里菜議員。

○吉岡里菜議員　ありません。ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○今里洋羽中学生議会議長　以上で、南中学校矢野春翔議員と、吉岡里菜議員の一般質問を終わります。

次の議長に、今治東中等教育学校の藤原嘉音議員を指名します。

暫時休憩いたします。午前11時５分から再開いたします。

午前10時49分

―――――――――――――

午前11時05分



○藤原嘉音中学生議会議長　会議を再開いたします。

議長を務めます、今治東中等教育学校の藤原嘉音です。よろしくお願いします。質問を続けます。

22番伯方中学校濵翔真議員。23番山岡杏紗議員。

○濵翔真議員　伯方中学校３年濵翔真です。

○山岡杏紗議員　同じく山岡杏紗です。

私たちの学校では、「挨拶コンテスト」という取組をしています。先生方に投票をしていただき、さわやか挨拶賞や校長賞など表彰を行いました。その結果、さわやかな挨拶や自分から進んで挨拶をする人が多くなりました。

○濵翔真議員　また、「ありがとう週間」を設けています。少しの事でも「ありがとう」と言い合って、ありがとうボードに感謝の内容を貼っていくという取組です。その結果、「ありがとう」の輪が広がり、ありがとうボードは感謝の言葉であふれました。

私たちは、ＩＣＴ教育・タブレットの充実について、２点質問します。

まず１点目です。本校の体育館はＷｉ－Ｆｉ環境が備わっていません。そのため授業でロイロノート等の学習アプリを使用できません。今後、市ではどのように対応していく予定か教

えていただければと思います。



○山岡杏紗議員　２点目は、「フィルタリング基準について」です。現在、授業で調べることのできないことも多くあります。どのような基準で、フィルタリングが行われているのか教えていただければと思います。御回答、よろしくお願いします。

○藤原嘉音中学生議会議長　答弁を求めます。

○小澤和樹教育長　伯方中学校の皆さんにとって、今年は地域の中で新しい出会いや変化を感じる機会が、たくさんあったのではないでしょうか。３月には伯方島テラスがオープンし、４月には今治市も学校存続のため努力した、愛媛県立しまなみ高等学校が開校しました。先日は、伯方島テラスにおいて、キッズプログラミング教室が開催されるなど、豊かな自然の中で新しい交流と学びが始まっています。皆さんが、挨拶や感謝の心を大切にしながら、地域の中でたくさんの学びの機会に触れて成長することを願っています。

それではお二人から御質問の「体育館のＷｉ－Ｆｉ環境について」お答えします。現在、市内中学校の体育館にはＷｉ－Ｆｉ環境が整っていない状況です。そうした中で、先日市内の中学校を訪問した時、体育館でタブレットを使って、生徒同士が運動の様子を録画・再生しながら、お互いの改善点について話し合っているところを見ました。様々な工夫をして前向きに学習活動に取り組んでいて、大変うれしく思いました。今、各校には屋外活動や体育館でのイベント映像配信などのために、無線で通信できる機器を１台ずつ配布していますが、体育館で学習アプリを活用したり、オンラインで交流活動をしたりするなど、今後さらに幅広く活用するためには、通信環境の整備が大切であると受け止めています。また、災害が起きたとき、学校の体育館は避難所となります。そのため、体育館にＷｉ－Ｆｉ環境を整えることは、生徒の皆さんのためだけではなく、地域全体を守り、役立つことにもつながります。今回いただいた御意見を踏まえ、皆さんの学びの環境をもっと豊かに、そして避難所として地域の安全を守るため、できるだけ早く体育館のＷｉ－Ｆｉ環境を整備できるよう、準備を進めていきたいと考えています。

私からは以上です。

○青野光尚教育政策局長　お二人から御質問の「フィルタリング基準について」お答えします。皆さんは日頃から学習端末を使っていて、なぜこのサイトが見られないのかと思ったことがあるかもしれません。全国の学校でも生徒を犯罪や有害な情報から守るため、同じような対応をしていますが、今治市では、有害なサイトをブロックする「Ｗｅｂフィルタリング」というソフトを導入しています。フィルタリングの仕組みは、ウェブサイトをグループに分けて管理するイメージです。例えば、「ハッキング」「ギャンブル」といった明らかにブロックが必

要なグループと、「スポーツ」「政府」「観光」といった学習に役立つグループに分類して、ブロックするかどうかを決めています。低学年ほど、ブロックするグループの数が多くなります。また、ブロック対象のグループに入っていないサイトでも、ページの中に禁止ワードが含まれていると、授業で使いたいサイトがブロックされてしまうことがあります。そんな時は、先生から連絡をもらって内容を確認し、必要であればブロックを解除しています。調べる内容によっては、思うように情報が得られず、もどかしさを感じることがあるかもしれません。しかし、信頼できる情報源を見極め、必要な情報にたどり着く力は、これからの時代に欠かせない大切なスキルです。ぜひ調べ学習のなかで、その力を磨いてほしいと思っています。これからも、皆さんの声を聞かせてもらいながら、時代の変化に合わせて、安心して学習できる環境を整えていきたいと思っています。

以上でございます。

○藤原嘉音中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

濵翔真議員、山岡杏紗議員。

○濵翔真議員　ありません。ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○藤原嘉音中学生議会議長　以上で、伯方中学校濵翔真議員と、山岡杏紗議員の一般質問を終わります。

次の議長に、日吉中学校の山本結愛議員を指名します。



○山本結愛中学生議会議長　議長を務めます、日吉中学校の山本結愛です。よろしくお願いします。質問を続けます。

12番北郷中学校尾田一熙議員。13番木村優花議員。

○尾田一熙議員　北郷中学校３年尾田一熙です。

○木村優花議員　木村優花です。

○尾田一熙議員　現在、私たちの学校では、英語力の向上に向けて外国語の学習に取り組んでいます。例えば、タブレットのアプリを活用して英語の正しい発音を知り、流暢に話す練習をしています。また、ＡＬＴの先生と１対１で話すスピーキングテストを実施することで、コミュニケーションに慣れる練習もしています。

私たちは、今治市内の外国語教育について２点質問します。１点目は、「瀬戸内の世界都市今治の実現について」の質問です。今治市は外国語教育によってグローバルなまちづくりを目指していることを知りました。今治市には世界に誇ることのできる造船業やタオル産業があり、外国から働きに来る人が増えています。私たちは、英語教育で育った今治市民が、海外から来られた方々と難なくコミュニケーションを取れるようになることが、さらなる産業の活性

化につながり、世界都市今治を実現させるのではないかと考えました。今治市としてどのようにお考えでしょうか。詳しく教えていただけたらと思います。



○木村優花議員　２点目は、「今後の外国語教育について」の質問です。先ほども触れましたが、現在今治市は外国語教育に力を入れており、今年度からＡＬＴが40人に増え、生きた英語に触れる機会が増えました。このことは、私たちにとって非常に良い経験になっています。しかし、世界都市の実現に向けて、外国の方とのコミュニケーションを取る機会がまだまだ少ないと感じています。そこで質問です。今後、外国語教育が進むにつれて、外国の方とのコミュニケーションを行う機会を増やす構想はあるのでしょうか。今後、今治市が目指しているまちづくりの展望について、私たちの道しるべとなるような御回答をいただけると、大変ありがたく思います。

以上２点について御回答をよろしくお願いいたします。

○山本結愛中学生議会議長　答弁を求めます。

○小澤和樹教育長　しまなみ海道の玄関口にある北郷地区は、「継ぎ獅子」などの伝統行事や、造船業をはじめとするものづくりの歴史が息づく地域です。地域の方々との交流や体験を通して、郷土を大切にする心を育んでいると聞いております。また、英語力の向上に向けて、北郷中学校の皆さんが、主体的に学習に取り組んでいることを大変頼もしく感じています。そうした日々の積み重ねが、確かな自信と、実践的な英語力を身に付けることにつながると思います。

それでは、お二人から御質問の「瀬戸内の世界都市今治の実現について」お答えします。尾田議員が学んでいる通り、今治市は海事都市として発展しました。また、世界に知られるタオルの産地として、高い技術力と品質が有名です。そのため、近年は海外から働きに来られる方も増えており、将来を担う皆さんが外国の方々と自然に交流できるようになるのはとても大切なことです。今治市では、「英語教育を受けるなら今治で」を合い言葉に、英語力だけでなく、コミュニケーション能力や自信を育む教育を進めています。また、家庭や地域と一緒になって「地域ぐるみの学習文化」を育てていくことも、大切だと思っています。地域と外国人住民の方々がともに防災活動を行ったり、ＡＬＴが英語ボランティアとして地域イベントに参加したりしています。英語をコミュニケーションツールとした多様な人々との交流を通して、皆さん一人一人が「瀬戸内の世界都市今治」を実現する担い手となってくれることを期待しています。

私からは以上です。

○村上才一教育委員会事務局次長　お二人から御質問の「今後の外国語教育について」お答え

します。今年度からＡＬＴを17人から40人に増員したことで、英語に触れる機会がこれまで以上に多くなりました。授業やそれ以外の場面でも英語に親しむことで、英語を話すことへの抵抗感が自然と薄れ、外国の文化や人々への理解もより深まると思います。７月に行われたイングリッシュデイキャンプでは、多くの小学生がＡＬＴと一緒に英語を使うことを楽しみました。８月には、中学生とＡＬＴがともに体験活動を行うイングリッシュステイキャンプが行われます。また、今後の展開として、国際交流協定を結んでいるフィリピン・ラプラプ市とのオンライン交流を考えているほか、姉妹都市であるアメリカ・レイクランド市との交流では、代表校によるビデオレターの取組も予定しています。今治に居ながらも、様々な国の文化や考え方に触れる機会をたくさん計画していきます。その他、来年１月に開かれる「モルックアジア大会」や、５月に開かれる、世界最大級の自転車国際会議「Velo-city2027Ehime」といった、多くの外国人が今治市を訪れるイベントが予定されています。皆さんには、身につけた英語力を最大限に発揮して、ぜひ参加者と積極的に交流してみてほしいです。さらに将来的には、バリシップやサイクリングしまなみといった機会に、今治・しまなみ地域通訳案内士として外国から訪れた方々に今治の魅力を発信する、といった活躍を期待しています。教育委員会としましては、これからも外国語教育の充実に取り組み、皆さんが外国語を使う楽しさや、異なる文化に触れる喜びを感じられる機会を大切にしていきます。そして、ふるさと今治への愛着と誇りを胸に、自信を持って世界へ羽ばたいていけるよう、これからも皆さんの学びを応援してまいります。

以上でございます。

○山本結愛中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

尾田一熙議員、木村優花議員。

○尾田一熙議員　ありません。ありがとうございました。これで質問を終わります。

○山本結愛中学生議会議長　以上で、北郷中学校尾田一熙議員と、木村優花議員の一般質問を終わります。

次の議長に、大三島中学校の國貞晴由議員を指名します。



○國貞晴由中学生議会議長　議長を務めます、大三島中学校の國貞晴由です。よろしくお願いします。質問を続けます。

24番関前中学校吉野颯良議員。25番仲野瑠花議員。

○吉野颯良議員　関前中学校３年吉野颯良です。

○仲野瑠花議員　２年仲野瑠花です。岡村島における救急搬送体制について２点質問いたします。まず、岡村島における救急搬送手段は、次の３つであると理解しています。１つ目は、救急艇「しまかぜ」による今治市内への搬送です。

２つ目は、救急艇「しまかぜ」で呉市の港へ搬送し、その後、呉市の救急車で医療機関へ搬送する方法です。呉市にかかりつけ医があることが条件です。３つ目は、ドクターヘリによる搬送です。ドクターヘリは、夜間は運航することができません。そこで、１点目の質問です。夜間や高波、濃霧などの場合、「しまかぜ」での搬送にかかる時間を教えてください。



○吉野颯良議員　２点目は「呉市との協定について」です。呉市上蒲刈島、大崎下島には呉市東消防署の出張所があり、実際に車で走行すると、大崎下島から岡村島まで約10分、岡村島から呉市内の総合病院まで約50分で到達可能と思われます。そこで伺います。一刻を争う救急事案への対応について、濃霧、高波などで「しまかぜ」での搬送に時間がかかる場合、直接呉市の救急車に来てもらえるよう、呉市との協定を見直す予定があるのか、今治市の見解をお聞かせください。

○國貞晴由中学生議会議長　答弁を求めます。

○徳永繁樹市長　関前中学校の皆さんは、岡村島の救急搬送について熱心に調べ、そして命に関わる大切な課題を真剣に考えてくれました。敬意を表したいと思います。

私は今治家の中の関前家。特に岡村島、大下島、小大下島というのは、少しまた特異な地域だと思っているのです。そして、岡村島の場合というのは、呉市と陸続きという優位性を生かしたまちづくりが必要だろうというふうに思っております。今日は救急のお話でございますけども、例えばおじいさんやおばあさんが病気になった、そして少し体調が悪いのだけどどうしようかというふうな場合というのは、診療所に行っていただいていると思うのです。この診療所も、閉所間近というところまで行きました。そのときには、呉市が持つ医療資源を何とか私どもに提供していただけないかというお話を進めておりましたけども、結果的には、私たちのＯＢの方が、松山市で随分と活躍をされた先生でありますけども、岡村島の診療所に勤務をしていただけるということに今なっています。そしてバックアップとして、先ほど申し上げたような、呉市が持っている医療資源で対応するというスキームになっているということをまずお話をさせていただきます。そしてこのことについて、呉市の市長と、そして今治市の市長というのは、毎年１回、政策的な協議を公式にやるようにしております。呉市が今治市と連携したことがいい提案、そして今治市が関前地区のことも含めて、これから呉市にお願いをしなくてはならないことということについて、様々な協議のテーブルがあるということについても、皆さんにお伝えをさせていただきます。

それでは、お二方から御質問をいただきました、一刻を争う救急事案への対応、そして呉市との協定内容の見直しについてお答えをさせていただきます。まず、こちらを御覧ください。関前地区におきましては、昨年度39件、救急の出動がございました。そのうち31件は消防

救急艇「しまかぜ」で今治市内の病院へ、８件は呉市の消防局の救急車で呉市内の病院へ搬送されています。このように、住民の皆さんの大切な命を守るため、そのときの状況に合わせ、最も適切な方法により救急搬送を行っているということです。現在の関前家におきましては、消防救急艇「しまかぜ」による搬送を基本としております。また、１秒を争う事案というのも当然ながらあるわけでありまして、愛媛県が持つ、あるいは、四国管内が持つ優位性の一つとしてドクターヘリもありますので、このドクターヘリを要請することもございます。なお、「しまかぜ」が故障したときには上島町の消防本部に、波が高くて船が出られないときには海上保安部に協力をしてもらって搬送を継続をしております。さらに、お話がありましたように霧が濃いとき、あるいは波が高いとき、海からの搬送ができにくいというふうに判断をした場合には、呉市との協定に基づいて、呉市の消防局に応援要請をし、大崎下島出張所の救急車で御対応をいただくというふうなことになっております。このように、関前地区では、船、ヘリコプター、救急車など幾つもの方法を準備し、どんな状況でも命を守ることができるよう、二重、三重の備えをしているというのが実情であります。大崎下島出張所の救急車は呉市の皆さんの命を守るために配置をされている大切な救急車だということは、お二人も理解していると思うのですけども、呉市の消防局には現在結んでいる協定に基づいて、これまでも状況に応じ、関前の皆さんのためにも柔軟に対応していただいております。協定の見直しが必要なほど大きな不便が生じた場合は、先ほどお二人にお伝えをしましたように、呉市長に直接私が要請をするということで、動いていきたいなと思います。呉市であっても、今治市であっても、広島県であっても、そして愛媛県であっても、命を守るということは自治体の使命でございます。このように、隣り合う町同士の協力というのが、地域全体に安全・安心をもたらすと私どもは考えております。今後も現在の協力体制を基本としながら、必要に応じ、より柔軟に対応可能となるよう、呉市の消防局や医療機関などと連携を深め、関前地区の皆さんにこれからも安心をお届けしたいと考えております。

私からは以上であります。

○森貞亜消防本部次長　お二人からの御質問の「夜間や高波、濃霧などの場合、「しまかぜ」での搬送にかかる時間」についてお答えします。

消防救急艇「しまかぜ」は、通常であれば今治港までおおむね50分で到着し、その後、今治港から病院までは、救急車でおおむね10分で搬送しています。また、昼間であれば、ドクターヘリが松山市から白潟港におおむね15分で到着でき、折り返して市内の病院へ向かうことができるほか、搬送される方の状態によっては、松山市などの大きな病院へそのまま搬送することもできるため、一刻を争う患者にも迅速に対応することができます。御質問の夜間につきましても、レーダーなどの機器を使用するとともに乗組員が周囲をしっかり確認しながら航行します。日頃から夜間を想定した訓練を繰り返し行っているため、できる限り通常と変わらない時間で搬送できるよう努めています。一方で、波が高い時や風が強い時は、波や風の影響が

少ないルートを選んで進みます。また、濃霧の場合には、視界が悪くなるため安全を第一に、速度を落として航行することから、病院への到着が通常より20分程度遅くなる場合があります。ただし、先ほど市長から答弁がありましたように、そのような場合でも、必要に応じて呉市消防局や上島町消防本部、海上保安部などと連携し、その時々の状況に応じて、複数の搬送方法の中から最も適切な方法を選ぶなど、できる限り早く患者を医療機関へ搬送できるよう、二重、三重の備えをしています。これからも関前地区の皆さんに安心して暮らしていただけるよう、夜間や悪天候でも安全に航行できる技術の向上と訓練を重ねながら、一分一秒でも早く患者を医療機関へ搬送し、大切な命を守るため、全力で取り組んでまいります。

以上でございます。

○國貞晴由中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

吉野颯良議員、仲野瑠花議員。

○仲野瑠花議員　御説明にあったとおり、現在の岡村島では、ほとんどの場合、救急艇「しまかぜ」での搬送が多いですが、その場合は、岡村島に救急艇が着くまでにも時間がかかり、そこから搬送するまでにも、長い時間がかかります。血が止まらない場合やけいれん等を起こしている場合は、早く病院に行かないと命に関わります。せっかく岡村島には橋がつながっていて、十分なインフラが整っていて、呉市からの救急車での搬送のほうが早く治療を始められると考えられるにもかかわらず、私たちの目の前を救急車は通るが、私たちは利用できない。現状は命を守れる可能性がある仕組みを十分に活用できてないと感じます。私は呉市から橋を使って救急車が岡村島に来てくれることが一番安心だと考えますが、そのことで呉市の住民に不利益が生じてはいけないとも思います。そこで、今治市のお金で救急車を１台呉市に置き、普段は呉市で使ってもらって、その代わり救急時には岡村島にも来てもらえるようにすることはできますか。命と安心して暮らせる毎日を守るため、一刻も早く救急医療を受けられる体制の実現を強く望みます。

○國貞晴由中学生議会議長　答弁を求めます。

○森貞亜消防本部次長　お答えいたします。お二人の御心配、私も理解しております。現在、呉市消防局では、現行の規定に基づいて、関前地区の救急搬送については柔軟に協力してもらっております。今回の関前中学校の皆さんからの地域の救急医療について真剣に考えた御提案につきましては、大変意義のあることと受け止めております。今後、今治市消防内部や、呉市消防局との意見交換などの機会を通じて、今回の提案の趣旨を共有し、現場での連携や運用のさらなる向上につなげていきたいと考えております。繰り返しになりますが、関前地区皆さんの御心配を少しでも取り除くために一生懸命取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

○國貞晴由中学生議会議長　吉野颯良議員、仲野瑠花議員。

○吉野颯良議員　ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○國貞晴由中学生議会議長　以上で、関前中学校吉野颯良議員と、仲野瑠花議員の一般質問を終わります。次の議長に、大西中学校の新居田夏海議員を指名します。



○新居田夏海中学生議会議長　議長を務めます、大西中学校の新居田夏海です。よろしくお願いします。質問を続けます。

26番今治東中等教育学校木村芽衣議員、27番篠﨑ねね議員。

○篠﨑ねね議員　今治東中等教育学校３年篠﨑ねねです。

○木村芽衣議員　３年木村芽衣です。

○篠﨑ねね議員　現在、本校では、「総合的な学習の時間」に地域について理解を深め、地域課題の解決方法を考える学習を行っています。その取組の一つとして、今治城の海につながるお堀を利用したマイクロ水力発電の導入の可能性について調査しています。今治を代表するシンボルである今治城は、「日本三大海城」の一つとしても知られています。その水路を利用してマイクロ水力発電を行い、発電量をモニターで表示することで今治城に「ゼロカーボンシティ今治」の象徴という新たな魅力が加わるだけでなく、市民の環境意識の向上にもつながるのではないかと考えたからです。そこで、私たちは今治市の脱炭素に向けた取組について２点質問します。１点目は、昨年度、環境省から選定された「脱炭素先行地域」についてです。今治市が選定された理由を教えてください。



○木村芽衣議員　２点目は、「ゼロカーボンシティ今治」の具体的な取組についてです。特に、車から排出される二酸化炭素を減らすために「アクセルトレーニング」を実施していると伺いました。どのような取組なのか、また、これまでにどのような成果が得られているのか教えてください。

以上で私たちの質問を終わります。

○新居田夏海中学生議会議長　答弁を求めます。

○徳永繁樹市長　今治東中等教育学校の皆さんは、総合学習で、松葉ペレットの活用やバイオ肉の普及、さらには今治城のお堀を活用したマイクロ水力発電の可能性の調査等々、持続可能な社会の実現に向け、その探究活動や地域課題を自らの視点でとらえ、そして解決を導こうとされている、そんな行動力にいつも驚かされています。

それでは、お二人から御質問をいただきました「脱炭素先行地域に今治市が選定をされま

した理由について」お答えをいたします。

この脱炭素先行地域とは、国が特に力を入れて応援をする脱炭素の全国の見本となるモデル地域のことです。要は今治地域で成功事例をつくって、全国の地方と言われるところに横展開をする、そんな取組になるのではないかということが、私どもの決め手になったのかなとも思っています。では、どう提案したかということですけども、今治市は愛媛県内で初めてこの脱炭素先行地域に採択をされました。とても難しいのです。私も途中で心が折れそうになりましたけども、担当課が今治市の固有の資源を生かしていただいた提案でした。その提案とは、サイクリストの聖地であるしまなみ海道と日本一の今治タオルという世界に誇れる地域の宝物を脱炭素という新しい価値をプラスして、今治をもっと魅力的にしていくという計画が高く評価をされたということです。なお、今回の採択によって６年間で19億円の財源を、国がサポートをしてくれるようになりました。このお金を効果的に活用しまして、しまなみ海道で環境に優しい観光等を広めたり、今治タオルをつくる工場で出るCO_2を、削減したりという取組を進めてまいりたい。今治市が目指すゼロカーボンシティの実現は市民の皆さんや企業、そして地域の誰もが、脱炭素は難しいよねというのではなくて、非常に取組が簡単だよねというふうに言っていただけるような、そんなモデルを創造し、そして行動を起こしていくことが何より大切だと思っています。今日のお二人が提案をしてくれた今治城での水力発電状況をモニターで表示するというアイデアは、訪れた多くの方が、自分の行動を見直す、すばらしいきっかけになるのではないかというふうに思っておりまして、私も高く評価をさせていただいております。皆さんのような若い世代の柔軟なアイデアそして情熱を持った方々が市政に様々な提案をしていただくことによって、今治の未来というのは豊かになるのかなと思います。なお、既に答弁を差し上げましたけども、今治市は海事都市だというお話をさせていただきました。そのストロングポイントを生かして、海や船をフィールドに、ロボットやＡＩなどの新しい技術に触れていただくようなものづくり、あるいは海事産業の魅力を体験できるような海のロボコンにも挑戦をしたい。来年の３月頃には今治城のお堀を活用した運航テストができないかなと思っておりますので、ぜひ、進取の気質を持った今治東中等教育学校の生徒の皆さんには、御参加をいただいて、一緒になって今治を盛り上げていただければ非常にありがたいなと思います。

私からは以上です。

○浅海文明市民環境政策局長　お二人から御質問の、「アクセルトレーニングの取組と成果について」お答えいたします。

「アクセルトレーニング」は、自動車を発進させる時に「最初の５秒間で時速20㎞になるようゆっくり加速する」という、エコドライブを意識・実践する取組でございます。今治市では、民間企業と協力して、全国初となる官民共同での実証を行いました。市役所の公用車の運転データ分析や勉強会を通じて、急発進を減らして、安心で地球に優しい運転へ自分から行動

を変えてもらうことを目的として取組んでまいりました。その成果として、公用車で実証実験したところ、平均燃費が約13％抑えることができました。これを全ての公用車約400台分に当てはめると、年間で約65トンものＣＯ₂排出量の削減となり、これは皆さんの家庭で１年間に使用する電気の約40世帯分に相当するもので、ガソリン代に置き換えますと、約500万円の節約となる効果がありました。また、もう一つの成果として、参加した方の９割が、「エコドライブや安全運転への意識が高まった」「気持ちにゆとりができた」と実感しております。さらに、車間距離を確保することや急ブレーキの減少にもつながり、脱炭素だけではなく交通事故を減らすといった、「安全・安心なまちづくり」につながるという相乗効果も生まれております。現在は、アクセルトレーニングの装置を市内企業へ無料で貸し出しており、市民一人一人のこうした小さな意識の広がりから、まち全体で脱炭素への意識を高められるよう取り組んでいます。ぜひ、皆さんの御家庭でも、「最初の５秒は、ゆっくり発進することで、地球にもお財布にも優しい運動なのだよ」と話題にしてみてください。

以上でございます。

○新居田夏海中学生議会議長　以上で答弁は終わりました。再質問はありませんか。

木村芽衣議員、篠﨑ねね議員。

○木村芽衣議員　ありがとうございました。これで質問を終わります。

○新居田夏海中学生議会議長　以上で、今治東中等教育学校木村芽衣議員と、篠﨑ねね議員の一般質問を終わります。

これで、全ての一般質問が終了しました。

徳永市長から、今日の今治市中学生議会の講評をいただきたいと思います。徳永市長よろしくお願いします。

○徳永繁樹市長　閉会に当たりまして講評を申し上げたいと思います。

本日、中学生議会に御参加をいただいた18人の議員の皆さん、そして議事進行をしっかりとお務めをいただいた９人の議長の皆さん、本当にお疲れさまでありました。各校を代表され、真剣な姿勢で議場に立つ皆さんの姿というのは大変頼もしかった、率直にそう思っています。皆さんが、ふだんから感じている地域の課題や身近な疑問、そして魅力あるまちづくりに向けた数々の提案、どの質問や提案からも中学生ならではの柔軟な発想と、今治をもっとよくしたいという熱い思いを感じさせていただきました。特に、伯方中学校の濵さんから体育館のＷｉ－Ｆｉ環境についての御提案がございました。今日、私どもは、皆さんにお答えをするために時間をしっかりと取って、答弁調整というのをさせていただいています。皆さんの質問をいただいて、担当課が様々な角度から分析をし、市長には今日はこういうふうにお答えをしてほしい、そしてそこには私や、土居副市長や教育長の思いというのを溶け込ませて答弁をさせていただいているのですね。その際にも、体育館においてＷｉ－Ｆｉの整備がないということはどうなのかということが議論になりました。少し前までは愛媛県がフリーＷｉ－Ｆｉを整備

してくれていたのです。でもこれが撤去をされて、今、Ｗｉ－Ｆｉがない状況になっています。では、今、熊本県のように地震が起こって、体育館が避難所になるということも当然ながら想定をしておかなくてはなりません。Ｗｉ－Ｆｉも必要ではないかということで、今日は教育長から前向きな答弁を濵さんにさせていただきました。そして先ほどは関前中学校の吉野さんと仲野さん、特に仲野さんの再質問ですね。今治市が救急車を仕立てて、お隣のまちにプレゼントすることによってその救急車が私たちを守ってよという提案なのだろうなと思います。今治市というまちは、瀬戸内海のへそに位置しております。お隣の町が呉市であったり尾道市であったり、西条市であったり松山市であったりするわけです。そんな中で、今治市の弱いところと、そしてお隣の地域の強いところを掛け合わせていくということは当然ながら考えていかなくてはならないことなのだろうなと思います。仲野さんの切実な訴えというのは私のところにも届きました。今後、どういう対応が今治市として、必要であるのか。そして呉市を巻き込んでどんな対応をしていくべきなのかということについても、しっかりと時間をいただいて議論をし、そして形にできたらなと思っているところでございます。私は市民が真ん中という話をよくさせていただいているのですけども、私も市民ですけども、皆さんも市民、私の見方もあれば、皆さんの見方もある。今日は本当に、皆さん中学生ならではの、現場を知っている方々のやっぱり提案がたくさんあったなと思うのです。それをどう取り上げていくのかということが、この市議会、そして市政なのだろうなと思います。今日私がこのバッチ、皆さん見えますか、サイクリストの聖地なので自転車のピンバッチをつけさせていただいています。この車輪のところは真珠なのです。これは今の愛媛県知事が、南予地方、宇和島市に入ったときに、真珠はすごく高価なのです。そして商品になる、品質基準も高いのです。高い品質基準をクリアしたものというのは当然ながら、皆さんのお母さんやおばあさんがお買い求めいただく店頭に並ぶのですけども、大半が廃棄されています。その廃棄されている真珠を、例えば自転車の車輪や、豚に真珠という形で、パールビズというふうに展開をしたところ、随分売れて、そして真珠業者の皆さんの懐が暖まったという取組がありました。今治市でいいますと、しまなみ海道がそうです。しまなみ海道というのは今日、大三島、伯方の生徒の皆さんも、あの道を通ってこちらに来ていただいたのですけども、この12年間、特にサイクリング振興というのはありませんでした。でも、今から12年以上前、あの供用中の高速道路を全面的に通行止めにして、その本線を走るというふうな提案を今の愛媛県知事がされた。そしてバックヤードは、あそこに座られている土居副市長が国土交通省の対応やいろいろなことをやった。当然ながら最初は物すごく反対されました。何を考えているのだと。命の道だぞと。そんな道を自転車のために止めて、サイクリング大会をするなんて何事だとお叱りをいただきました。今、成功事例をちょっとずつ積み重ねて、何と、徳永市長、あの大会は今度いつやるのですか。今度の規模はどんな規模ですかというふうに国が言っています。地方の取組が国を動かした証左なのですよ。今治駅からしまなみ海道に至るまで、結構市道を走ったり、県道を走ったり、国道を走

ったりしているのです。今、私どもが、北宝来近見線といいまして、今治駅から近見中学校の前の道を通って自転車専用通行帯をつくっています。これを見ていただいた愛媛県や国の人が、じゃあ、国道317号についても同じような改良をしていこうということになっています。加えて、来年の５月には日本初開催のVelo-cityという、世界最大の学術会議がここ愛媛県で開催され、今治にたくさんの皆さんがやってくるという仕掛けです。そして皆さんが、ヘルメットかぶっていただいていますよね。ヘルメットの耐用年数は３年間と皆さん御存じですよね。あのヘルメットというのは大体皆さんが進学をしたときには、おうちの中に、置かれているだけなのです。今後、私たちが考えているのは、皆さんがかぶっていただいたヘルメットを全部私たちが集めて、それを砕いてまちなかの家具にしようかと思っているのです。皆さんの世代のヘルメットがここにあるよということで、皆さんがいろんなところに行ったとしても今治に帰ってきたときに、自分たちの足跡を感じていただけるような取組なんかもしているのです。るるお話をしましたけども、まちづくりも、そして商売というのも発想の転換です。誰もやったことがないような時代を皆さんが生きているわけなのですね。だからこそ、おじいさんやおばあさん、お父さんやお母さんがこうして成功してきたという事例は今の時代、ほぼ通用しません。皆さんの時代というのはそういう時代なのだろうと思います。私からのメッセージとして適切ではないかもしれませんけども、どんどん挑戦をしてほしいというふうに思うのです。本気で挑戦をしたら必ず失敗もあります。成功することもある。でも本気で失敗したら、なぜ失敗したのかということを本気で考えます。同じような失敗をやっぱりしないようにもなるのです。誰もが経験したことのないような時代だからこそ、皆さんは、学校という小さいフィールドの中だけで生きるのではなくて、今治にはいろんな資源があるということを漠然とでも結構なので、見てほしい、行ってほしい、そして気づいてほしいと思います。そんな中で、私たちに様々な提案をいただけることは非常にありがたいと思っているところでございます。さて、今週末、台風が来ておりましたけども、今日の天気予報を見ておりますと、週末は何とかもつのかなと思っておりまして、安堵しています。いよいよ今治の夏を彩る市民のまつり「おんまく」が近づいてきました。今年のテーマ「ノスタルジア～郷愁～」です。ふるさとへの懐かしさや大切な人との思い出、心温まる記憶を呼び起こすこのテーマは、まさに今、様々お話ししましたけども、ふるさとへの思いと重なるものではないのかなと思うのです。将来、皆さんが大人になって、遠く離れた場所からこのおんまくの花火を思い出したとき、今治に育ってよかったと、何かいいな今治と思っていただけるようなぬくもりのある郷愁を感じていただけるようなまちに皆さんと共にしていきたいと思っております。私たちは希望に満ちあふれる皆さんの限りない成長を祈っています。そしてこれからの活躍を、ここ今治からずっと、皆さんを応援し続けてまいりたいと思います。

結びになりますけれども、本日の中学生議会の開催に当たりまして、お力添えをいただいた全ての関係者の皆様に、そして温かく長時間見守ってくださった関係者の皆様に衷心よりお

礼を申し上げまして、閉会に当たりましての講評とさせていただきます。

大変楽しいひとときでありました。ありがとうございました。

○新居田夏海中学生議会議長　徳永市長、ありがとうございました。

以上で、本日の日程は全部終了しましたので、今治市中学生議会を閉会します。

